

2007年8月17日

本日の国内株式市場の下落について

アイエヌジー投信株式会社

本日の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が87.07ポイント安(▲5.55%)の1480.39、日経平均株価は874円81銭安(▲5.42%)の15,273円68銭と大きく下落いたしました。これにより、当社が運用するアイエヌジー・日本株式オープン(愛称:ガリオン・ファンド)の基準価額は427円安(▲6.06%)の6,615円と大きく下落しました。

本日の株価下落について、当社では以下のように考えております。

1. 株価下落の要因

- ①サブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅ローン)を裏づけとする資産担保証券の価格下落などにより、欧米の金融機関やファンドでの損失の計上が続いていることを受け、投資家の不安感が高まり、欧米の株式相場が下げ止まらないこと。
- ②米国の利下げ観測の台頭や、円キャリー取引の解消などにより、為替市場で円高が急速に進んだこと。
- ③欧米株式市場の下落が、本邦株式市場の下落へと連鎖し、投資家が損失抑制のための売りを急ぎ、いわゆる「売りが売りを呼ぶ」展開になっていること。

2. 今後の見通し

サブプライムローン問題を発端とした金融市場の混乱が落ち着くまでには、まだしばらく時間が必要になると思われます。しかし、米国におけるサブプライムローン残高は同国の信用市場全体の規模から見ればそれほど大きくはないこと、主要金融機関の利益や自己資本比率が高水準であること、市場の混乱に対して各国の中央銀行が資金供給を増やしており、信用収縮による金融不安の連鎖を未然に防ぐ努力を続けていることから、徐々に流動性の回復が図られ、市場は安定化の兆しを見せてくると思われます。

国内の企業業績は引き続き好調を持続しております。株価下落により、業績と比較した株価の割安感が高まってきています。欧米金融市場の不安定さが時間の経過とともに落ち着けば、国内株式市場は割安感から見直され、回復に転じることが予想されます。

以上
